



森のなかま

2014年9月号
NO.77 (継続222号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

平成26年度 第2回ブラッシュアップ研修 「経路新設・補修」(公財)かながわトラストみどり財団主催
6月28日(土)9:00~14:30、南足柄市塚原水源林

講師 (有)西湘造林の皆さま

<記 渡辺 朋和 12期 >

○ データ提供 (公財)かながわトラストみどり財団 古館様

8:00~8:30 受付 小田急開成駅 8:30~9:00 バス移動 到着後オリエンテーション
9:00~11:30 実習 11:30~12:00 バス移動 足柄合同庁舎
12:00~13:00 休息・昼食 13:00~14:30 Q&A 閉会
14:30 解散(現地解散組とバス移動(開成駅)解散組)
参加予定 54名 → 実参加 39名 (悪天候で3/4に減)
次回研修は11/29 間伐研修 塚原水源林

写真撮影:
石川裕一氏 12期
広報 松本

(有)西湘造林様を講師に迎え、塚原水源林で作業経路の作り方実習を行いました。朝は、いまにも降りそうな空模様でした。案の定、現場に到着したとたん降り始めました。しかし、ここまで来たからには、実習をしないで撤退は申し訳なく、雨合羽を着込み雨に濡れながらの実習となりました。

まず班ごとに分かれて、各講師から作業手順の説明。

- ①唐鍬(とうくわ)でステップを切る。
- ②現場にある細い木を間伐して、杭(約60cm)横木(約80cm)を作る。
- ③道路から1歩踏み出したところに横木を置き、最初の1段を決める。
- ④両端から少し内側に2本の杭を打ち込み、シノを使ってなまし鉄線(番線)をねじり固定する。



雨の中でのオリエンテーシ



霧もできました。



使用経験の少ない“シノ”での作業。



大木槌での杭打ちは慣れの人も不慣れな人も

杭の頭が出過ぎたときは、再度、打ち込むと緩んでしまうので、打ち込まずノコで切り落とします。2段目以降もステップを切る、横木を固定する作業を繰り返しますが、ステップの部分が、常に水平になるように注意します。

また、鉄線を手早く確実に固定するには、シノを丸太に滑らすようにすれば数回で固定できます。経験する機会のない作業なので、それぞれ交替しながら実習を行いました。

正午近くになっても、雨の止む様子もないので足柄上合同庁舎に移動して昼食をとった後、講堂で質疑応答の時間が設けられました。

経路は最短経路を選びながらジグザグに作っていく。公園などは勾配を緩めにする。杭を打ち込む深さは、全体の3分の2程度といったことなど、講師から改めてポイントを解説していただきました。神奈川県標準仕様は、財団に依頼すれば資料をいただけるとのこと。雨で泥だらけになりながらも、実践的な研修で有意義な時間でした。



足柄合同庁舎での質疑応答

自然観察部会 2014年度研修会 「 **森林生態系における小動物の働き** 」
 県立津久井湖城山公園パークセンター研修室 7月5日(土)10:00~14:30 雨 参加者17名

＜森林自然観察部 部会長 松永 廣 11期＞

自然観察部会では年に一度、自然観察の知識技術説明などのレベルアップのため研修会を開催しています。本年度は県立津久井湖城山公園 公園利用専門員 <自然解説担当>清水海渡様、<史跡解説担当>永井智章様に講師を依頼して開催いたしました。



パークセンター

午前は研修室において清水様より森林における代表小動物であるネズミ、モグラ、蛇について、パワーポイントを使っての説明に参加者17名全員が興味を持って聞き入りました。



自然解説担当員 清水様

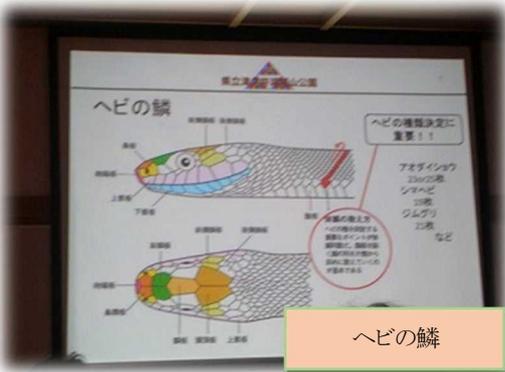
ネズミは生態系では草食の一次消費者であり種子散布者として森林のなかでは底辺を支える重要な働きをしていることを学び、猛禽類、ヘビなどにとっては大切な食料であり多様な生態系には必要な生物であることを再確認しました。



フラットスキン(標本)



クマネズミのはく製



ヘビの鱗

日本には全部で8種類のモグラが確認されており、そのうちヒミズは腐葉土を生活の場としていること、モグラは肉食であり畑で作物を食べているのは、モグラの穴を利用しているネズミが食べていると説明を聞いて「目からうろこ」でした。

城山公園には8種類のヘビが確認されているそうです。嫌われ者のヘビですがヘビから人を襲うことは絶対にありません。ヘビを見たら写真を撮って種類を確認してほしい、そしてそっと見守ってほしいとの説明に命の尊さを感じました。

午後は雨の中 自然を満喫しながら永井様に城山について説明を受け貴重な史跡であると説明をいただき楽しい有意義な一日でした。



史跡解説担当員 永井様

人も自然も いきいき **丹沢**
 丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会
 ホームページ <http://www.tanzawasaisei.jp/>

(写真提供も松永氏)

『 持続可能な森林・林業への道 (1 of 2) 』 (10月号に続きます)

< 神奈川県チーフ森林インストラクター 飯村 武 >

江戸時代後期、実践主義の農政家(報徳仕法)、思想家として知られる二宮尊徳(幼名 金次郎)は、神奈川県の足柄平野(小田原市栢山)で1787年に生まれ、1856年に今市(栃木県日光市)でその生涯を閉じた。

尊徳の活動は農村生活を軸に行われているので、森林・林業に係るいくつかの事跡が語り継がれている。

その一つに514文字から成る次のような一文がある(二宮翁夜話、福住正兄筆記1884)。



参考写真
二宮翁夜話本
第十三版

「翁山林へ入りて材木を検査す、挽割たる材木の真の曲がりたるを指て、論して曰く、此木の真は、則ち所謂天性なり、天性此の如く曲れりといへ共に、曲りたる内の方へは肉多く付、外へは肉少く付て、長育するに随て大凡直木となれり、是空気に押るが故なり、人間世法に押れて、生れ付を顕さぬに同じ、故に材木を取るには、木の真を出さぬ様に墨を掛るなり、真を出す時は、必ず反り曲がる物なり、故に上手の木挽の、材木を取るが如く、能人の性を顕さぬ様にせば、世中の人、皆用立べし、真を顕さぬ様にするとは、佞人も佞を顕さず、奸人も奸も顕さぬ様に、真を包みて、其直なるをば柱とし、曲れるをば梁とし、太きは土台とし、細きは桁とし、美なるをば造作の料に用ひて残す事なし、人を用ふる、また此の如くせば棟梁の器と

云べし、又山林を仕立るには、苗を多く植付べし、苗木茂れば、供育ちにて生育早し、育つに随ひ木の善悪を見て抜伐すれば、山中皆良材となる物なり、此抜伐りに心得あり、衆木に抜んで長育せしと、衆木に後れて育たぬとを伐取るなり、世の人育たぬ木を伐る事を知り手、衆木に勝れて育つ木を伐る事を知らず、縦令知るといへ共に、伐る事能ざる物なり、且此抜伐り手後れにならざる様、早く伐取るを肝要とす、後るれば大に害あり、一反歩に四百本あらば、三百本に抜き、又二百本に抜き、大木に至らば又抜き去るべし」と。

人生訓を重ねてのこの一文、筆者は次に様に読み解いて見た。

対象とする森林は、用材生産を目的としたスギ・ヒノキ等の人工林と考えられ、内容的に前段が木材の性質と利用上の留意・注意点、後段が林木の育成法。換言すれば前段が木挽・棟梁の眼、後段が林家としての知恵のだしどころと目標である。



(以下 次号(10月号)に続く)

二宮 金次郎 像
(小田原駅の銅像)
(撮影 広報 松本)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次10月号はあります。



活動短信

今回の掲載は
6月29日～7月12日です。
寄稿頂いた中には、紙面都合
や寄稿タイミングで次号以降
の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。



◆ 横浜市立能見台南小学校

(上郷宿泊体験学習 ～自然観察～)

日 6月29日(日)13:00～21:00、晴れ後曇り

場 横浜自然観察の森

参 小学4年生 139名、教師等 11名

イ L 杉戸⑥、谷川⑪、松永⑪、内山⑬、
大原⑬、藺田⑬、長尾⑬、真部⑬

朝まで降っていた雨も上がり、昼食を終えた生徒たちは、太陽の下、広場に集まっていた。横浜自然観察の森のまりあレジャーから、動物や植物の説明と注意事項を聞いた後、1クラス2班に分かれて昼の部の観察会に出発した。暗い森や明るい森、湿地や草原、深い森や隆起した地層を見ながらせせらぎに下る。起伏に富んだコースは、少し長いけれど、多くの生き物たちに出会えるととてもとても魅力的な散策路だ。江の島に注ぐ境川の水源の一つであるこの森は横浜にありながら、水源の小さな流れや水中生物に直接触れることができ、森と水の間を学ぶための好適地であると思う。話を聞きながらも、昆虫を捕まえたり、生徒たちは元気一杯。歩き疲れてきた頃、昼の観察会は終了。

インストラクターは、夕食とキャンドルファイヤーを共に過ごし、夜の観察に再び出発。生徒たちは、光の点滅するへイケボタルと、わずかに残るゲンジボタルのふわりとした舞を楽しむことができ、本日の日程は無事終了。

長い長い観察会だったが、それだけに、別れ際は名残惜しく感じた。伝えた内容の何倍もの笑顔をプレゼントされたようで、この宿泊体験が素敵な思い出になるよう祈りながら、帰途についた。

(記 真部 幸枝 13期)

◆ 横浜市立綱島東小学校

(自然観察&川の環境について)

日 7月1日(火)13:30～16:00、晴れ

場 愛川町中津川 レインボープラザ近辺の河川敷

参 小学5年生3クラス89名

教師 村上先生 他10名 カメラマン1名

イ L 堀江④、井出①、島岡③、鈴木⑥、谷川⑪、
赤崎⑫、藺田⑬、小川⑬、星野⑬

好天に恵まれました。子どもたちは、島岡インストラクターから中津川について全体の説明を聞いた後、グループごとに決められたポイントからの活動に移り、9名のインストラクターは、「川の流れの様子」を子どもたちが観察し、実際に川に入って水の流れを体感する活動を支援しました。

観察する場所は、河原と水の流れの様子が見渡せる橋の上、対岸の堤防、水辺近くのポイントの4ヶ所でしたが、子どもたちは汗を拭き拭き熱心にスケッチや文章による記録をしていました。

蛇行する川の流れの外側と内側のちがいや河原と崖の様子、泡立つ水面とそうでない場所のちがひ、魚道が設けられている堰などに関心を持った子が多く見られました。また、川の流れの中心部分と浅瀬の流れの速さのちがひをペットボトルを流す実験で調べました。ここでは、実際に川の中に入って水の流れを体感してもらうことも出来ました。

川での活動支援は、会としては、今回初めての取り組みのようでしたが、ヒヤリハットにつながる問題点もなく無事活動を終えることができました。

現在、今後の充実した活動につなげるべく、参加したスタッフの声を集約しています。

(記 谷川 克 11期)

◆ 横浜市立南小学校

(森林講話)

日 7月2日(水)10:20～13:10、曇り

場 学校内 第2音楽室

参 74名(小学5年生72名、教師2名)

イ L 西出⑫

学校側の要望「神奈川県環境資源としての森林の状況を知りたい」にどう応えるか種々検討し、パンフレット「かながわ水源の森林づくり」(作成:自然環境保全センター)を基本に講話を進める事にして、事前打合せで先生方の了解を得た。当日は、児童が講話に集中するように、できる限り質問しながら進めた。まず、全員のレベルを合わせるため、パンフレットに出てくる語句の説明

をしたが、これに意外と時間を取られ、本来1時限(45分間)であった予定が、予備に取ってもらっていた2時限(90分)まで全て使って、講話を終了する事ができた。児童が慣れない長時間にもかかわらず、音楽室の板の間に座って、良く話を聞いてくれたと感謝している。終了後にご厚意に甘えて、生まれて初めての学校給食を美味しく頂いた。

「小5の知識にびっくり」樹木の働きを説明する中で、「人は敵が来ると逃げるけど、木は逃げられないよね。だから、木は嫌なものが近付かない様に香りの物質を出しています。その物質の中には人間に癒しを与えてくれるものがあるんだよ。」と言ったら、男子児童が「フィットチッドですよ」と言ったので、びっくり！いくら情報時代とはいえ、今の小5の知識は素晴らしいと感心した。

(記 西出 健一 12期)

◆ 横浜市立緑小学校

(間伐体験)

日 7月3日(木)10:00～14:30、晴れ

場 相模原市緑区長竹承継分収林

参 小学4年生157名、教師8名

ボランティア3名 合計168名

財 豊丸様 古舘様

イ L小野⑦、柏倉④、斉藤⑥、伊藤⑦、白畑⑦、

坂齋⑦、内野⑨、小沢⑨、福島⑪、松本⑪、

澤村⑫、西出⑫、大原⑬、藺田⑬、小川⑬、武井⑬

インストラクター全員でミーティングをしながら参加者(児童達)を待つ。10時過ぎに愛川ふれあいの村の広場に到着。そこで今日の体験作業が怪我、事故なく有意義に終わるようお互いに挨拶を交わしあった。

(今日の体験作業の前に事前学習として、森林の役割や林業等について小野リーダーが6月25日に緑小学校体育館にて講話をしている。)

バスで分収林入口まで移動、そこで財団の担当者から個人装備、共同装備を受け取り、班ごとに手分けして持ち、イザ出発。作業道を少し登った斜面の急な所が間伐体験現場である。今回は選木も班ごとで行う。

インストラクターによる健全な森林、間伐の意義等の説明を受けながら選木し、作業場所、退避場所の確保及び整理をして伐倒作業をした。

(記 武井 直人 13期)

◆ 株式会社 テレビ神奈川

(森林散策 変更 ⇒ 絵馬工作)

アサヒビール神奈川工場 鮮度実感バスツアー等)

日 7月5日(土)9:30～12:00、曇り時々霧

場 県立21世紀の森

参 TV 神奈川と神奈川新聞の

一般カップル公募者大人77名

イ L 杉崎⑩ 伊藤⑦ 白畑⑦ 松本⑧ 大原⑬

インストラクターは現地(県立21世紀の森)9時集合。

天候不順なので下見時の散策コースを変更踏査する。

9:30海老名 SA より21世紀の森の事務所へ天候と交通状況の最終連絡があり、雨バージョンの絵馬工作と決定される。10:00イベント開始予定がバス到着遅れで10:45と大幅にずれ込んだ。

森林館会議室に報道関係者を含め全員(約90名)が集合し、21世紀の森の磯崎所長とアサヒビールの大鳥さんのご挨拶、我々インストラクターの紹介後、会議室内を工作室用に模様替えし、工作材料や工具を配備する。

アサヒビール工場へ12時着の制約時間の中、絵馬工作は木工センターに2班32名、森林館会議室に3班45名が11:03～11:25の超短スピードで取り組んだ。参加者はバスの中で絵馬作りの構想描きを事前に伝えられていたようで、驚異の制作集中力で全員がそれぞれ個性的な作品を仕上げた。

バスまでの帰りがけに、若い数名のカップルが霧の上が行く山を眺め、「外で散策をしたかった」とのつぶやきを耳にした時、我々はとても辛かった。

彼らには此処の四季折々の良さを伝え、再訪することをお願いした。

バスを見送り会議室の後片付けをし、昼食を摂りながらまとめを行い、13時終了解散。

(記 杉崎 恒三 10期)

ニュースレター「しずくちゃん便り」
ホームページは下記URLで見ることができます。



<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

◆ 川崎市「里山ボランティア育成講座」第2回

日 7月5日(土)10:00~14:30、小雨

場 多摩消防署生田榎戸特別緑地保全地区

参 37名(里山ボランティア育成講座参加者)

スタッフ 川崎市公園緑地協会 野牛様 川瀬様
他 現地スタッフ

イ L山崎⑫、国分③、小野⑦、門澤⑫、菌田⑬

川崎市公園緑地協会が企画し実施中の「里山ボランティア育成講座」(年6回)の本年度2回目で午前中は多摩消防署にて(普通救命講座)を受講。

午後は近くの榎戸緑地にて竹林の整備(孟宗竹の除伐・粗朶垣作り)を予定していたが、雨の為インストラクターによる「伐倒・枝打ち・玉切り」を参加者が見学・説明と質疑応答へ変更した。

デモに先立ち協会側から作業上の注意事項として、

* 受け口・追い口を入れ二度切りにて地際から伐採

* 枝打ちは鋸を使用しナタや棒は使用しない

の2点の説明を受けたのち2本伐倒した。

現地は孟宗竹が密生した私有地で年11回の作業を4年間続けているとの事だがまだかなりの密生度である。住宅地に近い場所の為散歩に来る人々も多いそうで遊歩コースが整備されており、適度に密度管理され、スラリと伸びた竹林に接すると気持ちも晴れやかになります。林内には道路工事用の土砂採取時に発見された古墳が、2基ありこれも他に誇れる財産でしょう。

雨天は作業をしない・伐採は鋸のみ使用など安全面での十分な配慮のもとで市内各地(主に麻生区)の緑地保全にスタッフや多くの一般市民が参加しているこの制度を企画から立ち上げてきた関係者に敬意を表します。

(記 小野 幸広 7期)

◆ 県民参加の森林づくり

(下刈り)

日 7月6日(日)9:20~13:00、晴れ

場 小田原市久野

参 大人34名

財 内海課長 鳥海様 看 青木様

イ L鈴木松⑤、菊地①、高橋③、稲辺⑤、斉藤⑧、篠原⑨、湯浅⑪、大塚⑪ 吉田⑪、渡辺敏⑫、水上⑬、(研)田中⑬

梅雨前線の影響で、実施日が一日延期で6日となった。

8:30集合、予想通り参加者は50%減となった。

バスに班単位乗車、参加者再度確認後、現場に向かう。

財団・小田原市挨拶・インストラクター紹介・準備体操・作業遵守事項の徹底・休憩の取り方・蜂の巣発見の処置・途中の鎌刃の扱い・作業安全確保等々を徹底確認後作業に入る。

現場は、植栽5年経過、陽当たりの良い条件が揃い、植栽樹(広葉樹)の生育が順調、殆んど下草が樹木より下に生えているので、作業はし易い。ただし、参加人数が少ない班もあるので、何処を残すかは、各班インストラクターの責任で進行、結果トラブルも無く11:50、ベース地に帰着。今回より始めたシャープナー研ぎを確認して無事終了した。

(記 鈴木 松弘 5期)

(7月7日 七夕)



◆ 三菱重工株式会社

(間伐作業)

日 7月8日(火)、晴れ

場 やどりき水源林

参 事務系新入社員23名+スタッフ2名=合計25名

県 増田様

イ L有坂⑧、伊藤⑦、小沢⑨、西出⑫

大型台風の発生で天気予報と相談しながらの間伐作業となった。

担当の三菱重工山崎様からは集合時間を早めにとの話が出た位です。前日の雨模様の中、参加された方の願いが届き好天に恵まれた。

倉庫の横でのオリエンテーション開始、間伐作業は4班に分かれ神奈川トヨタのパートナー林を登った箇所が本日の作業現場準備体操、間伐等の説明を行い作業開始私の担当の3班には紅一点の女性も加わり和やかな雰囲気の中無事伐倒作業がオーの掛け声とともに終了。

枝打ち、丸太切りとお土産のコスターを作成 伐倒木の整理を済ませ植物観察をしながら帰路に就いた。道具の

整備をしながら参加者に山ビルのチェックをお願いしたところ数名の方が山ビルの洗礼を受けた模様です。この経験もやどりの山を知って頂いた本日の間伐作業の一面と成りました。

(記 小沢 章男 9期)

◆ 横浜市立初音ヶ丘小学校

(土壌動物の観察)

日 7月11日14:30～16:00、晴れ

場 横浜市立初音ヶ丘小学校

参 小学4、5、6年生 計15名(森林クラブ) 教師2名

地元サポーター 伊澤様、堀江様④

イ L須長⑥、落合③

「森は緑のダム」モデル実験による森林の働きを学習した後、校庭の土の中にある虫達を実際に採取してその働きを理解してもらうことが狙い。

子供達は虫を捕まえることに熱中しムカデ、ヤスデなど普段見ない虫の顕微鏡観察には驚いていた。班毎に、捕まえた虫を検索図表により同定して記録し最後に発表して終わった。

虫嫌いの子が孤立することもなく全員楽しんでくれたと思う。反省として子供が虫採集に熱中するあまりそれに時間がとられてしまい、虫の働きについての説明が不足したことで時間配分や進め方を工夫する必要がある。

土壌動物の観察は多分初めて実施するプログラムと思うが、準備も比較的簡単で小学校の中でできるので緑のダム実験とともに広がっていくと良いと思う。

(記 須長 勲 6期)

◆ 県民参加・緑の募金保全活動

(下刈り)

日 7月12日(土)8:30～13:30、晴れ

場 南足柄市内山(県立21世紀の森)

参 29名(参加申込33名)

財 豊丸様、初山様、看 青木様

イ L内野⑨、友谷①、渡辺③、鈴木⑤、永野⑥、

山崎⑦、斎藤⑧、波多野⑨、水口⑨ 研:杉崎⑬

梅雨の晴れ間で蒸し暑く、熱中症に留意しながらの作業となった。オリエンテーションの初めに「21世紀の森」所長の磯崎様からご挨拶と行事案内を配布していただいた。

現場は緩い傾斜で、樹種は無花粉スギ(樹高膝下位)。今年3月に「25年度成長の森」として植栽した所で草に覆われていた。「成長の森事業」の寄付で購入した大切な苗木なので、丁寧な作業で誤伐のないようにとお願をして4班に分かれて作業にかかる。

最初は人数的に全区画終わるだろうかと懸念したが、皆さんの熱心な作業で1時間後には「終わりそう」と目処が立ち、予定時間より少し早く全区画を終了することができた。汗を拭き拭き目的を達成した充実感でお互いを称えあう光景が見られた。この時期気になる蜂は、アシナガバチが1ヶ所、テープで囲み処置。またこまめな水分補給等をお願いしていたが、不調を訴えて作業を中止した方が3名、何れもすぐに回復されてホッとした。「25年度成長の森」応募の1家族(1歳位の女兒連れ)が参加されていた。母子は木陰で待機していたが、作業後には皆さんから声をかけられて愛らしい笑顔が見られその場が和んだ。

昼食時のグループミーティングは各班とも皆さんで自己紹介や趣味の話などをして和気あいあい。また「緑の募金保全活動」ということで、募金にも協力して頂いた。

(記 内野 ミドリ 9期)



かながわ森インストラクターの会は
支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

投稿概略フォーマットと略語の説明

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付 (できれば時間と天気も)

場 場所

参 参加者

県 (神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財 ((公財)かながわトラストみどり財団)、看 看護師

スタ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ : インストラクター (○数字: 期) 研: 研修枠
(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

やどりき水源林 ミニガイド

8月のトピックス

水源林のつどいが8/16に開催されました。会報掲載は来月号です。



(500人超えの水源林のつどい一部スナップ 8月16日撮影)

9月の水源林

残暑が予想されます。水源林に来て水遊びをしましょう。都会から信じられないくらい近い場所です。

「森の案内人」情報

- 実施時間：毎週土曜・日曜・AM10時・PM1時、1～2時間程度
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料
- *10人以上の団体は事前にご連絡ください。
- 問合せ：(公財)かながわトラス
みどり財団 TEL：045-412-2255
FAX：045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail：midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅またはJR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35～40分。
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

HPでは過去号もご覧いただけます。

<http://www.forest-kanagawa.jp> (HP担当:井出恒夫)

「**神奈川ワイルドライフフォーラム**」の開催 神奈川県では、ニホンシカ、イノシシ等の野生鳥獣による農業への被害が深刻化しています。そこで、農作物への被害をはじめとする鳥獣被害及び、鳥獣被害対策への理解を深めていただくため、「神奈川ワイルドライフフォーラム」を初めて開催いたします。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

日時：平成26年9月23日(火/祝)10:30～16:00

場所：横浜市鶴見公会堂(鶴見区豊岡町2-1-7が16・7階)京浜東北線鶴見駅西口下車 徒歩1分

内容：(1)11:15～12:25 基調講演 講師 **永島 敏幸** 氏 (俳優・コンサルタント)

「農業と野生鳥獣との関わり～鳥獣被害対策の重要性」

(2)13:30～15:30 鳥獣の生態、鳥獣被害対策、狩猟者による体験談の紹介

(3)10:30～16:00 鳥獣被害対策、狩猟に関する展示・相談コーナー

申し込み：(1)アクセス、またはハガキにより、①～⑥を記載いただき、申し込み願います。

①行事名 ②郵便番号 ③住所 ④氏名 ⑤年齢 ⑥連絡先

(2)宛先 〒231-8588 横浜市中区日本大通1

神奈川県環境農政局 水・緑部自然環境保全課 野生生物グループ宛 FAX: 045-210-8848

(3)申し込み期限：平成26年9月5日(必着) 問い合わせ：電話：045-210-4319

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f986/p828798.html>

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

松本 保

Mail：matsutamo@jcom.home.ne.jp

Tel：090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

〒221-0865

横浜市神奈川区片倉2-1-50

Tel：090-6150-6173

Mail：s_akasaki-k_instructor@live.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】松本 保

〒246-0037

横浜市瀬谷区橋戸3-46-17

Fax：045-301-9401

電話連絡先：090-7962-3168

Mail：matsutamo@jcom.home.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax：0465-42-7240

Mail：minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax：046-825-9281

Mail：2nahemi0818@kce.biglobe.ne.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★少し涼しくなり、会社近くの公園では、栃とハゼの実が日ごとに大きく実ります。今年は何のクラフト作ろうかと楽しみです♪

(大塚)

★夏休みが終わった時の喪失感が、大人になったはずなのに無くなりません。いくら後悔しないように遊び倒してもメランコリーから逃げられない…

(赤崎)

★ベランダで育てているプチトマト。水が少ないまが「甘い」と言われ、その気になっていたら「ドライトマト」になっていました…

(小川)

★広島のと石流大惨事をはじめ、この数年の豪雨、竜巻など温暖化の影響間違いないですよ。この先がとても不安です。

(水口)

★お盆を迎える季節になると周りでは「つくつくぼうし」の声と同時に「玉虫」が沢山飛んでくる。炭焼き用に置いてあるクヌギやコナラに盛んに卵を生みつけている。「玉虫」には悪いが1ヶ月後には窠入れとなってしまふ。

(徳岡)

★軽井沢で地の昔の自然を伝えるボランティア活動をしている従妹の所へ行ってきました。有名な町は地道な活動をする人が少ないそうです。HPは「軽井沢サクラソウ会議」です。

(松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒価 200円 送料共)

編集人：松本 保

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 水口俊則

鈴木 朗 徳岡達郎 大塚清子

赤崎さほり 小川和恵 小池 哉

支援

伊藤恭造 川森健司

森林探訪参加者募集

知り合いや友達に声をおかけください!!

日時：2014年9月27日(土) (水源環境保全・再生市民事業支援)

テーマ：湯坂路「箱根湯坂路で秋を満喫」

集合：8時30分 JR小田原駅西口集合

コース：JR小田原駅―芦之湯―湯坂路―鷹巣山―浅間山―宮ノ下 15時ころ解散

募集：9月1日～9月20日必着

参加費：1,000円(割引はありません)

持ち物：昼食、飲み物、雨具など必要と思われるもの

問い合わせ：申し込み：往復はがきに、森林探訪名、開催日、

参加者全員の住所、氏名、年齢 電話番号を記入し、下記宛先まで

〒245-0016 横浜市泉区和泉町6206-1 グレーシアいずみ野105 松永廣

問い合わせ Tel 050-8880-3465

注意：雨天決行、バス代個人負担です。状況によりコースの変更有ります。

